

桑木先生 ソサエティ-5.0は、インターネットがモノとつながるIoTやAI（人工知能）などのデジタルテクノロジーを活用することにより、必要なときに必要なサービスを受けることができ、暮らしが豊かになる社会だとされている。国内にはIoTやAIを活用した介護施設が既に存在するが、自分がそこで介護を受ける立場だったらどのような印象を受けるだろうか。

渡部 ハイテク過ぎてついていけない。人との直接の関わりが減りそう。

大河内 常に心拍数や呼吸数などのデータが把握されていて、容体に変化があったときにすぐに対応してもらえるのはありがたい。

桑木先生 では、そのような施設で働く介護スタッフの立場では、どのような印象を受けるだろうか。

渡部 前の意見とは逆になるけど、自分たちに代わってコンピューターが仕事をしている分を、コミュニケーションをとる時間に充てられそうだ。

大河内 そこで使われているコンピューターは高性能だと思うので、コンピューターに任せて安心して働けると思う。

桑木先生 コンピューターは万能ではないし、AIも今はまだ成熟しておらず、教えられて学習できたことにしか対応しない。命に関わる現場においてはAIに任せきりではいけない。AIは人間の能力の足りない部分を補うものと考え、AI利用時の最終的な判断は人間が行うこととする「人間中心の原則」を念頭に置く必要がある。

ソサエティ-5.0

人間らしさも重要に

では、私たちがデジタルテクノロジーと共存するソサエティ-5.0時代に、生きて働くために身に付けておくべき力は何だろうか。

大河内 AIなどに行わせる仕事についての深い知識がないと最終的な判断はできない。また、コンピューターを操作する技能や、AIについての知識や技術の習得も必要ではないか。



福祉学部福祉心理学科
写真右から渡部昌史さん、桑木道子
講師、大河内吉幸さん（学生はいずれも3年）

桑木先生 AIはデータを収集してそれをもとに処理をする。私たちにはデータ処理、すなわちデータサイエンスについての知識や技能も必要だね。

渡部 人間を中心として考え、AIに使われるのではなく、AIを使いこなす能力が必要だと分かった。

大河内 ソサエティ-5.0の社会に出ていくにあたって、自分たちだけが知識や技能を身に付けていても社会の発展は望めない。家族にも分かりやすく伝えなくてはいけないと思った。

渡部 家族だけでなく、自分が勤める会社でも広める必要があるよね。

桑木先生 専門分野の職務内容やAIなどのデジタルテクノロジー、データサイエンスに関する知識や技能を身に付けること、人間らしい道徳的規範に基づいた判断による問題解決ができ、コミュニケーションがとれることも重要。それらを身に付けたくうえで、周りに啓発できる人になってほしい。

◇ ◇
「地域と家庭のオピニオンズ」は今回で終了します。福島学院大と福島民報社の連携協力協定に基づく新企画を新年度に始める予定です。

感想や意見をお寄せください。〒96001
8602 福島民報社地域交流部。ファクス
は024(561)4117、メールtchii
ki@fukushima-minpo.co.jp
(氏名・電話番号を明記)